



生活の中の仏教語

『もったいないーその仏教的意義ー』

曹洞宗布教師 吉田 俊英 師

仏教で言う「戒」は、禁止命令ではありません。自らを律して行くための心がけ、努力目標という意味です。戒には、五戒、八斎戒、十善戒などの種類がありますが、その第一に不殺生戒があります。仏教で説く「不殺生戒」とは、「殺すな！」という命令ではなく、「私は生き物の命を奪わぬよう、努力していきます」という誓いなのです。

私達人間も食物連鎖の中で生きていますから、他の生き物を食することでしか生きていけません。だからこそ、無益な殺生は行わない。生きるために他の生き物の命を戴くからには、感謝の心で戴き無駄にしない。物を大切に使い、生かし切ることを心がけ、今という時を大切に、無駄にしないといけないということです。ですから修行道場などでは「時間の無駄使いは、時間の殺生」という言葉が雲水（修行僧）を戒めたりします。

私達が日常使う言葉に置き換えると、「もったいない」という教えの事です。

平成16年、ケニア共和国環境副大臣のワンガリ・マータイさんはノーベル平和賞を受賞しました。その翌年2月、マータイさんはニューヨークの国連本部で開かれた「国連婦人地位向上委員会」での演説の中で、「もったいない」という言葉の持つ重要性を訴えました。以前来日した際に日本語の「もったいない」という言葉を知ったと話し、『もったいない』キャンペーンを展開し、資源を有効に利用しましょう」と訴えました。

外国の方が日本に来て「もったいない」という言葉に感動し、国連の場で世界に向けてその言葉を発信しました。一方、日本の私たちはマータイさんほどに「もったいない」という言葉とその心を大切にしているのでしょうか？。今の日本社会では「もったいない」という言葉は死語になりつつある、と嘆いているエッセイを読んだことがあります。時代が変わっても、教えるべきこと、伝えるべきことは変わらないと思います。それを怠ったままでは、我々の子孫は物を粗末にし、地球を粗末にしていくでしょう。

国連の場から世界に発信された「もったいない」というメッセージ。それは仏教で説く不殺生戒の教えでもあるのです。我々日本人が率先してこの言葉の意味を見直し、世界中に「もったいない」というメッセージを発信し、物の命を大切に地球を大切にしていきたいものです。

曹洞宗 宮城県布教師協議会会員
(仙台市 洞林寺住職)



『形見の役割』

[兵庫県 女性 アルバイター 32 歳]

私は祖母の形見をいくつか持っています。それは楊の櫛とお手玉と財布の飾り物なのです。これを一つの箱に入れて本棚に置いているのですが、何かしら悲しみに包まれた時や、祖母の事をふっと思い出した時などに、私は箱を開けて、櫛で髪を梳いたり、お手玉を手のひらに乗せたりして、留まった時間の中で、魂を漂わせるのです。やがて安らぎに満ちると、そっとそれらを箱の中に戻して、ふたを閉じます。形見というものは、生きている私達にとって大きな意味を持つものだと思います。思い出は心の中にあればいいと思いますが、時として形になったものの方が、人を励ましたり、優しい気持ちにさせるのが容易ですね。形見はそんな役目を持っているのではないでしょう。

私は人生に終わりを告げる際、肉親はもちろんですが、友人にも形見を残したいと考えています。わが人生に彩りを添えてくれた周囲の人達に形見を残したいと思います。昔から手仕事が好きで洋裁や、パッチワークを趣味としていますが、私が死ぬまで、続けるだろうと思われる唯一のものなのです。

中学2年生から今までの人形の好きな親友には、人形を形見にしましょう。ムーミンに顔が似ているとのことで中学生の頃「ムーミン」と呼ばれていたのでカバの人形を。

友人 M さんはとても花を愛する人なので、布の花束がいいなと思います。チューリップやスパティフィラム、綿の小切れでいっぱい作って大きな花束を作りましょう。仕事場で親しくなった映画マニアの T さんには映画用パッチワークの膝掛けを作りたいです。

短大時代から好奇心いっぱいの友人 F さんは、いつも大きなバックを持っており、丈夫で楽しいビックな布袋。細かいアップリケの模様で技あり、てとこでしょうか。中は仕切がたくさんあって使いやすくしています。

私は、こうやって、各々の友人を思い浮かべて様々な手作りの品を作っておきます。私を見送る式場では柩の側にそれぞれの形見が友人の名をたずさえて受けとってもらおうのを待っていることでしょう。

お線香を立てて手を合わせる。その後スッと身を引く。というお葬式は、それなりに、慎み深い雰囲気があるのですが、友人への形見を手にとって席に戻るといってお葬式ならば、参列の人達も、知人どまりの付き合いの人達が、ああ、あの人は今は亡き人と非常に懇意な間柄だったのだろうと推し量り、静かに故人の交流を偲ぶといった演出もできるでしょう。

[セキセー（葬にまつわる体験談）引用]

除夜の鐘

12月31日の大晦日の夜、1年の日暦を除く夜ということから除夜と言われています。その年の最後の夜、暮れゆく年を惜しみながら、また、新しい年を迎えるにあたり108回の除夜の鐘をつくようになりました。

なぜ、除夜の鐘を108回つくのでしょうか？

108という数字が人の煩惱の数だと言われていますが、108の煩惱は人間の感覚を司る眼・耳・鼻・舌・身・意の六根が、それぞれに好（気持ちが良い）、悪（いやだ）、平（何も感じない）、不同3種があり $3 \times 6 = 18$ の煩惱になって、これが、浄（きれい）、染（きたない）の2種類に分かれて $18 \times 2 = 36$ の煩惱となり、さらに、現在・過去・未来の3つの時間が関わって、 $36 \times 3 = 108$ となり108の煩惱になると言われています。

一方で鐘をつくことは、中国の宋の時代に始まったことで、そのつきかたは《勅修清規》に「慢（よわく）十八声、緊（はやく）十八声、三緊三慢共一百八声」と記載されています。

除夜の鐘が聞こえ始めると「もう、1年が終わりなのだ」と寂しくなりますが、鐘の音を聞きながら1年間を振り返ってみるのも良いかもしれません。